

「まちなか居住推進事業」とは？

まちなかに“これからも住み続けたい”“新たに住んでみたい”“また訪れたい”と思う人が自然に集まるまちを目指す**新しいまちづくり**の取組です！

本紙やホームページを通じて事業の取組内容や進捗状況を定期的にお知らせしています。

中央3丁目・荒川町でワークショップを実施しました

中央3丁目・荒川町にて、まちなか居住推進事業の勉強会がこれまでに2回開催され、**ワークショップ形式の意見交換**を行いました。

ワークショップでは、各回のテーマについて話し合い、様々な意見が挙げられました。

10月4日：第1回ワークショップ



11月22日：第2回ワークショップ



第1回ワークショップでの意見

<町内の魅力>

- ・ 祇園祭などの祭り
- ・ 安寿姫と厨子王丸の供養塔
- ・ 海からの風が通って涼しい
- ・ 若い人が移住してくる
- ・ 住民同士の仲が良い
- ・ 行事の参加率が良い
- ・ 道が広い
- ・ 雪が少ない
- ・ 三・八の朝市
- ・ 神社・歴史
- ・ 海が近く釣りなどもできる
- ・ 青年会がしっかりしている
- ・ 面倒見の良い人が多い
- ・ 駐車場が確保できる
- ・ 車通りが少なく静か
- ・ 夕日がきれい

など

<町内で困っていること>

- ・ 空き家（特に古めの）が多い
- ・ 町内会役員のなり手が不足
- ・ 家の間口が狭く奥に長い
- ・ 災害時の避難場所
- ・ 車がないと買い物などが不便
- ・ 観光客の減少
- ・ 浜のゴミ、関川の堆積土砂
- ・ 資金が無く空き家を壊せない
- ・ 個人主義、個人情報への配慮
- ・ 津波が怖い
- ・ 高齢者が多く災害時の避難が困難
- ・ 朝市の日には車が出せない
- ・ 冬の強風や塩害
- ・ 雪の置き場がない

など

<解決策>

- ・ 空 き 家 …………… 駐車場があると若い人が住んでくれる
釣りのための住宅としてアピールする
更地にすれば新しい人が居住する
市に空き家の除却支援をしてもらう
- ・ 災 害 …………… 防災訓練の継続、建物の耐震化、避難所の設置
- ・ コミュニティ …………… 積極的に挨拶や声かけをする、子どもと話す
地元愛・愛着の継続
- ・ 買 い 物 …………… 高齢者を車に乗せて買い物に行く
バスを使いやすくする（循環バスなど）
生協を利用する
- ・ 観 光 …………… 若い人に宣伝してもらう
朝市でイベントなどを実施して出店を増やす

など



第2回ワークショップでの意見

＜まちの将来像＞

- ・人と人の結びつきのあるまち … 祭りや催し、あいさつ
- ・人が集まるまち … 空き家が無い、若い人が集まる
- ・交流のあるまち … 朝市、神社の祭り、船見公園、海
- ・お年寄りが住みやすいまち … シェアハウス・グループホーム
- ・地域資源を生かしたまち … 祭り、神社、文化
- ・防災に強いまち … 地震・火災に強い、道が広い
- ・活気のあるまち … 交流を楽しめるまち（会話、子どもとお年寄りの交流）
海・川で楽しめるまち（外で遊べる、関川沿いで楽しめる）

など

＜どこで、どんなことができそうか＞ ※一部抜粋

＜船見公園＞

- ・イベントをする
- ・釣りぼり

＜朝市通り＞

- ・ちゃぶ台設置
- ・ベンチ設置
- ・店舗数を増やす
- ・空き地を利用した休憩場
- ・お年寄りの集まる喫茶店

＜空き家の活用＞

- ・2軒3軒合わせて建替える
- ・耐震耐火の住宅

＜空き家の多い区画＞

- ・シェアハウスやグループホーム
- ・無人店舗



＜琴平神社＞

- ・神社をPR
- ・花火観賞で神社開放

＜安寿姫と厨子王丸の供養塔＞

- ・分かりやすいサインの設置

＜川沿い＞

- ・釣り
- ・ランニング

＜空きビル＞

- ・空きビルを生かす
- ・荒川町防災センター（避難所）

＜空き家の多い通り＞

- ・空き家に絵の展示



アドバイザーからの講評

～第1回ワークショップ～

3グループに共通する意見として、**地域コミュニティおよび人間関係が良好**である点が挙げられました。

新しく地域に加わった若い世帯が将来的に町内会役員のなり手となることで、地域コミュニティの継続と発展につながるような好循環となることを願います。

一番大切なことは**今住んでいる人が住み続けること**です。そうすることで魅力が伝わり、新たに住む人につながり、さらにはまちを訪れる人につながっていきます。

～第2回ワークショップ～

“どういうまちにしたいか”が今回の一番のポイントです。

“人”や“交流”“活気”などのキーワードを統合すると、荒川町の将来のまちづくりのイメージが固まってくると思います。

誰か一人の意見でまちの方向性は決まるものではないので、色々な各会・各層の**話し合いを積み重ねていく**ことが大切です。

住民の皆さんが主体となって話し合い、行政と連携して**協働のまちづくり**を進めていってほしいと思います。



上越市まちづくりアドバイザー
埴（らち）正浩氏



～ワークショップと今後の流れ～

第1回

魅力

困っていること

さらに魅力が高まる

良いところを伸ばす

解決策

どういたことができそうか

第2回

まちの将来像・どこで、どんなことができそうか

第3回～

具体案・地元と行政の役割分担など

まちづくり方針の作成

まちなか居住推進地区認定

※ワークショップの内容は
進捗により変更する場合があります



**みなさんも一緒に取り組みませんか？
市がサポートしますので、お気軽にご連絡ください！**



発行 上越市まちなか居住推進事業事務局（窓口：都市整備課 市街地整備係）

E-mail: toshi-shigaichi@city.joetsu.lg.jp

Tel: 025-520-5764 / Fax: 025-526-6112

上越市 まちなか居住

検索

